



まなびい 掲示板

▶生涯学習フェスティバル

と き 10月23日（土） 10:00～19:00
24日（日） 9:00～15:00

ところ 町社会体育館柔剣道場、トレーニング室

内 容 ・町内の文化団体、サークルおよび個人の作品展示
・16mm映写機によるアニメ上映会
・さき織り体験や各種公開教室

▶生涯学習フェスティバル

個人展作品募集

生涯学習フェスティバルに出展する作品を募集しています。皆さんの日ごろの学習の成果を発表してみませんか。

出展数 1人3点まで

出展料 無料

申込み 10月15日（金）までに町教育委員会事務局（役場内線275）へ

※作品は10月22日（金）に直接会場にお持ちください。都合のつかない方は事前に葛巻公民館へお持ちください。

※生涯学習フェスティバルについて、詳しくは町教育委員会事務局生涯学習推進室（役場内線275）へお問い合わせください。

（問い合わせ先）
・町教育委員会事務局生涯学習推進室（役場内線275）
・石井幸子 66-0282（夜間）

内容…衣装作り、ヘアメイク、小道具、照明、音響、小さな子どものケアなど

泥だらけマドキドキ洞窟探検

明神穴探検隊

車門地区にある鍾乳洞、明神穴を探索する「明神穴探検隊」は9月12日と19日に行われ、合わせて30人が参加しました。日本洞穴学研究所（岩泉町）の方の案内のもと、つなぎとヘルメット姿に身を包んだ参加者たちは、腹ばいで泥だらけになりながら暗い洞窟を進んで行きました。洞窟内には鍾乳石や希少種のコウモリなど、普段は目にすることができない光景が広

がり、参加者からは「とてもワクワクした」「この機会に明神穴に入ることができて良かった」と感動の声が上がっていました。明神穴は普段、安全やコウモリ保護のため、鍵を掛けています。入洞希望の方は5名以上から受け付けていますので、詳しくは町教育委員会生涯学習推進室（役場内線276）へお問い合わせください。



泥にまみれながら明神穴を進む参加者たち

「みんなで楽しむ

演劇体験講座」

スタッフ募集

演劇体験講座は、約20人の参加者で9月5日にスタートし、11月14日のチャリティーショーの発表に向け練習を重ねています。

そこで、発表会に向け、当日や事前の準備を手伝ってくださるスタッフを募集します。葛巻町在住の方であればどなたでもかまいません。手伝っていただけ内容によって、打ち合わせ、練習見学、公演当日の参加など条件が変わりますので、左記にお気軽にお問い合わせください。皆さんの得意なことでも力を貸してください。

第9回俳句コンテスト
俳句の町に寄せられた風と恋の物語

応募総数 5,195句

今年で9回目を迎えた「風と恋の俳句コンテスト」（葛巻町俳句で文化の薫る町づくり実行委員会主催・藤岡徹委員長）は9月10日に応募が締め切られました。日本全国やフランス、ブラジルなど海外からも応募があり、5,195句の作品が寄せられました。ご応募いただいた作品は、黛まどかさんにより審査が行われ、入賞者へは10月初旬に通知されます。（選外の通知はありません）

表彰式は10月31日（日）
吟行会も同日開催します

表彰式は、選者の黛まどかさんをお迎えして、10月31日（日）午後1時から町総合センターで行われます。

また、表彰式に先立って午前9時30分から黛さんと巡る吟行会も予定しています。テーマは季節にあった句を自由に詠む「当季雑詠」で、優秀作品は午後からの俳句コンテスト表彰式で表彰されます。みなさんも紅葉に彩られた葛巻の山々を巡りながら、一句詠んでみませんか。

表彰式や吟行会について、詳しくは町教育委員会生涯学習推進室（役場内線276）へお問い合わせください。

第9回風と恋の俳句コンテスト応募状況

テーマ別	風	3,194句
	恋	2,001句
部門別	幼児・小学生	811句
	中学生	1,025句
	高校生	355句
	一般	3,004句
地域別	町内	1,134句
	県内（町内除く）	1,502句
	県外	2,551句
	国外	8句



吟行会で参加者の指導をする黛まどかさん（昨年10月）

俳句を楽しもう⑬

葛巻俳句会会員 齋藤誠子さん
俳句コンテストも第9回を迎え、これも町民皆さま方の温かいご協力の賜物と感謝申し上げます。今回は、俳句を通しての「絆」といいますか「縁」について書いてみます。
第一回「風」優秀賞
コスモスの風の真中の車椅子 千葉県松戸市 松本智治
第七回「恋」岩手日報社賞
麦秋の色してあの日よみがえり

岩手県野田村 古山シツエ
松本さんは、先月号の「ふるさとへのメッセージ」に登場した新海静子さん(旧姓藤森)と同じボランティアグループに属しておられます。7月にこのグループが葛巻へおいでになることを知り「私の句碑が建っているらしいから写真を撮って来て欲しい」と話され、すでに葛巻との縁があったんだと、グループの人も葛巻の人たちもうれしく、会も盛り上がりしました。
毎年同級生の数十名に、一言の手紙と共にコンテストの応募用紙を入れて「俳句の好きな方に差し上げて下さい」とお願いしています。古山さんも用紙を渡されたお一人で、入賞の手紙が届いたとき、一番に同級生の家へ知らせに行ったとか。同級生のさらにその先へ「縁」をつくり、大切にしてくださっていることに感謝でいっぱいです。このようなことを俳句を通じての縁、「俳縁」というそうです。コスモスが風に吹かれ、栗がたわわに実る今年の秋を、どうぞ一句詠んでみてください。